



みんなで学校楽しいな（斗賀野小学校）

さかわ

Sakawa

46
2011.5.1

議会だより

発行 高知県佐川町議会

3月定例会

contents

目次



黒岩の地名発祥と言われている岩

霧生関公園事業に4億円 4

水道料金28年ぶり値上げへ 6

入札制度改善策あるか(一般質問) 15

校庭の芝生化を(あの質問のゆくえ) 20

歳入 入るお金

（町民自身で賄うお金）

23年度の自主財源

（町民自身で賄う町の運営費）は約17億2,200万円。内訳は主に町民税や固定資産税などの町税で、昨年より微減の約10億4,360万円となっています。

（国や県からくるお金）

地方交付税（国税の中から地方に配分されるもの）は微増の25億9,320万円。



住んで良かったと思える

住みやすいまちづくりを目指して

歳出 出るお金

0万円。国庫支出金（国と協力して行う事業や教育などの財源として国からくるお金）は微増の5億2,186万円となっています。

人件費は昨年より微増の9億5,739万円。普通建設費は霧生閑公園（仮称）建設事業、旧佐中グラウンド整備事業など、昨年より大幅増の10億1,614万円となっています。

平成23年度

一般会計予算

65億8,818万円

平成23年度一般会計予算は 賛成8、反対5で可決

一般会計予算とは・・・佐川町の福祉・教育・防災対策など、住民サービスを行い、町政運営に必要な大事な予算です。年度初めの一般会計予算は当初予算と呼ばれ、1年間の町の運営が賄われます。

【賛成議員】

森 正彦、片岡 勝一、松浦 隆起、岡村 統正、氏原 義幸
西村 清勇、徳弘 初男、藤原 健祐

【反対議員】

坂本 貞雄、中村 卓司、松本 正人、今橋 寿子、嶋崎 正彦

3月定例会は、8日から11日までの会期で開かれました。
平成23年度一般会計予算をはじめ平成22年度補正予算、条例の制定や改正などが上程され、議案33件、報告1件、議員発議による意見書3件を審議し、全員賛成及び賛成多数で全件可決しました。
一般質問には8人の議員が登壇し、町政全般について、活発な論戦を展開しました。

23年度予算編成は

子育て支援、医療・福祉、防災対策を優先

討論

・・・だから賛成します
・・・なので反対します

賛成

徳弘初男

本予算は、子育て支援策やがん検診事業、高齢者や障害者へ向けた事業にも細やかな心配りが見られる。
旧佐中グラウンドは、スポーツを通じて健康増進を目的とした社会体育施設として、1日も早い整備が必要だ。大型事業とともに、インフラ整備にもしっかりと予算措置がされており、欲を言えば足りがなく、総じてよく練り上げられた予算となっている。

23年度一般会計予算

反対

松本正人

本予算は、58億円とした予算規模見通しを8億円近く上回っている。
本予算を膨らましている主な事業の一つに旧佐中グラウンド整備事業があるが、町民の間から「必要ない」との批判の声が絶えない。身の丈を無視し、町民不在、思いつき町政とそしられても仕方がない。この事業の見直しが行われない限り、賛成できない。

平成23年度各会計当初予算

会 計 名		本年度予算総額	前年度予算総額	比較増減
一 般 会 計		65億8,818	60億4,795	5億4,023
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	17億8,013	18億4,247	△6,234
	後 期 高 齢 者 医 療	1億9,440	1億9,200	240
	住宅新築資金等貸付事業	789	824	△35
	学 校 給 食	5,512	5,734	△222
	農 業 集 落 排 水 事 業	2,517	2,501	16
	特定環境保全公共下水道事業	614	621	△7
	介 護 保 険	15億8,796	15億5,424	3,372
	水 道 事 業	2億8,486	2億6,715	1,771
	病 院 事 業	21億8,203	17億3,483	4億4,720
総 計		127億1,188	117億3,544	9億7,644
重 複 額		7億5,462	7億3,163	2,299
全 会 計 純 計		119億5,726	110億0,381	9億5,345

(単位：万円)

※水道事業および病院事業会計の予算額は（収益的支出額＋資本的支出額）を計上

～大切なお金、どう生かす～

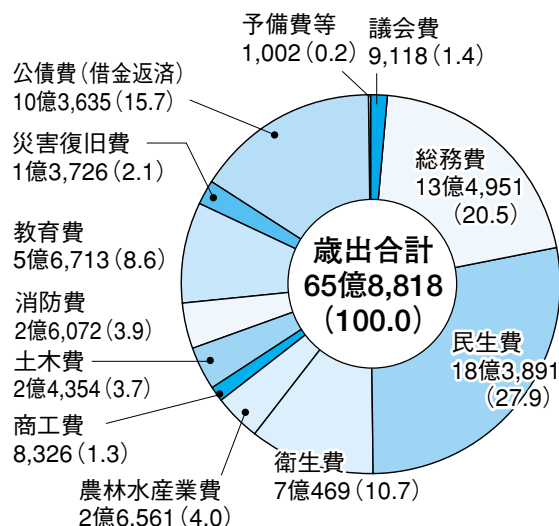
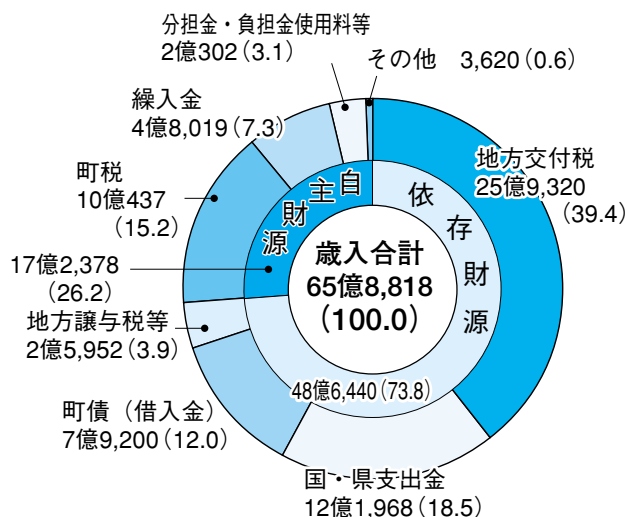
議会が注目する、主な事業にクローズアップしてみました。

クローズアップ

—23年度予算—

単位：万円（％）

23年度 一般会計予算



多額の事業費が投入されている公園建設

霧生関公園（仮称） 建設事業 4億751万円

町民がスポーツやレクリエーションを楽しむ施設として建設するもの。
多目的広場、ヘリポート、テニスコート、駐車場などの整備工事費や施工管理委託料など。

集落基盤整備事業 4,600万円

久万田堰の機能保全工事や可動堰の調査を行うもの。

旧佐中グラウンド整備事業

(文化センター第2グラウンド)

1億3,000万円

防球ネット、駐車場、排水設備、トイレ、倉庫・更衣室などの整備や武道館の屋根塗装工事を行うもの。



社会体育施設として活用が期待される



耐震工事が待たれる尾川小・中学校

防災対策として、尾川小・中学校の耐震設計と黒岩中学校の耐震診断を行うもの。

尾川小、尾川・黒岩中学校
耐震補強設計・耐震診断
2,971万円

通学路防犯灯設置事業

152万円



通学路の安全に向けて大きく前進

児童・生徒の通学途上の安全対策として、部落等が主に共用していない通学路について、防犯灯を設置するもの。



産業振興の起爆剤に

昨年度に引き続き、地産牛乳を利用した、新商品の開発や販売促進に取り組むもの。

地産牛乳販売促進加工品
開発事業（ぢぢぢ）
300万円

3月定例会で決まりました

条例改正

水道料金 28年ぶりに値上げ

水道使用料が28年ぶりに見直され、平成23年7月の検針分から、改定率で10%増額される。

基本料金

650円→714円

超過料金・家庭用

80円→88円

超過料金・営業用

100円→110円

超過料金・団体用

95円→105円

メーター使用料

10%増額。

(7月1日施行)

(賛成11・反対2)

消防設備整備へ 基金積み立て

消防ポンプ自動車などの消防設備や防災施設の整備を行うために、基金を積み立てるもの。

(4月1日施行)

(賛成・全員)

出産育児一時金 42万円、恒久化

平成21年10月から、暫定的に支給されていた出産育児一時金の支給額42万円が、国の制度改正により、恒久化されるもの。

(4月1日施行)

(賛成・全員)

暴力団排除条例制定

暴力団の町民生活への介入を排除し、町民の安心安全な生活を確保するために、全県下の市町村が暴力団排除条例を制定するもの。

(4月1日施行)

(賛成・全員)

建物購入契約締結

「歴史まちづくり事業」に伴う建物購入契約

(建物)

上町・旧浜口邸

(取得価格)

1533万円

平成23年 第1回臨時会 2月7日開会

工事請負契約締結

霧生関公園(仮称)

建設(造成)工事

(契約の方法)

指名競争入札

(契約金額)

1億8931万5千円

(契約の相手)

晃立・大川特定建設

工事共同企業体

平成23年 第2回臨時会 3月30日開会

工事請負契約締結

町道川ノ内線

道路災害復旧工事

(契約の方法)

指名競争入札

(契約金額)

9639万円

(契約の相手)

株式会社 晃立

議案質疑

提出議案に対して、各議員から出された質問の主なものを紹介します。

産業高度化事業 中止すべき

森議員 産業高度化技術開発室には、約426万が予算計上されている。現在まで約1500万円の費用をつぎ込むことになるが、成果はゼロに近い。中身を精査し、中止すべきではないか。

榎並谷町長 成果が見えておらず、産業興しの方向が若干尻すぼみになっている。ただ、人材の育成面から言えば、大阪大学の社会人ドクター課程に1人、派遣しており、資格の取得により、人材育成の一つの方向に



いまだに成果がみえない開発室

なる。

決して、無駄な投資とは考えていない。将来に生かす方向で、これからも知恵を出さなければならぬと考えている。

霧生関公園 費用の総額は

松本議員 23年度の予算編成方針の中では、予算規模の見直しは、58億となっていた。実際の予算では8億円上乗せされた形になっている。この理由は何か。

また、霧生関公園は23年度で完成する予定だが、これまでになかった費用の総額と純然たる町単独の負担額はいくらになるのか。

榎並谷町長 予算について

では、できるだけ大きなものにならないよう、努力は絶対必要であり、かなり絞った数字を示した。

ただ、霧生関公園は平成10年からの経緯もあり、仕上げる必要がある。これが、特異な事例として、膨らんできたと考えている。

岡林総務課長 霧生関公園の費用は、平成19年度から23年度までの総計で7億420万8千円となっている。その内、1億5千万円が町の純然たる負担となる

予算額、身の丈にあっているか

中村議員 今回、提出されている予算額は、大変大きな金額だが、身の丈にあっているのか。

榎並谷町長 霧生関公園と旧佐中グラウンドの整備が23年度に集中し、増額になっている。基本的には、手幅になった予算との認識を持っている。

水道料金の値上げ 唐突性に問題

松本議員 給水条例の改正により、約10%の水道料金の値上げとなる。今までは県内で2番目に安い料金であった。極端に

言えば、水道料金が安いから佐川町に住んでいるという人がいないとも限らない。水道運営委員会などで1年半ぐらいにわたって議論されたところだが、唐突性に非常に問題がある。



水道水安定供給に向けて値上げされる

榎並谷町長 水道運営委員会での議論は、長い時間をかけてのものであり、単なる値上げだけではなく、水道運営全般にわたってのものだ。

8月からの値上げであるので、それまでに議論の内容などをきちんと説明し、広報等で周知をさせていただく。理解をいただけるものと考えており、町民の方に唐突感はないのではないかと思います。

3月 補正予算 ピックアップ

平成23年度3月補正予算

(単位：万円)

会 計 名		補正額	補正後の額
一 般 会 計		6,481	67億2,656
特別会計	国民健康保険	△8,014	17億8,113
	介護保険	△408	15億5,227
	水道事業	△2,689	2億4,027
	病院事業	△580	18億1,742

※病院事業・水道事業会計は、収益的支出＋資本的支出

きめ細かな交付金事業 9,966万円

きめ細かな交付金5
279万円を活用し、県
補助金1258万円と一
般財源(町費)3429
万円を財源に、農業関係
施設整備、道路修繕事
業、教育委員会所管の施
設整備を行う。

農業用機械、農道
等整備・改良事業
2228万円

集落営農組織やJA
稲作受委託組織の農業
用機械の整備、原島農
道の改良工事などの一
部に、きめ細かな交付
金を充当するもの。

教育委員会
所管事業に充当
7738万円

すでに事業が完了し
ている、旧佐中グラウ
ンド整備、青山文庫改
修、佐小特別教室改修
の費用の一部に、きめ
細かな交付金を充当す
るもの。

住民生活に 光をそそぐ交付金事業 2,522万円

これまで住民生活にと
って重要な行政分野であ
りながら、なかなか今ま
で光があたらなかった分
野に改めて光をあてる趣
旨のもと、それらの分野
の整備を行うもの。

町立図書館の
整備事業
2133万円

図書検索システムの構
築や駐車場の整備、空調
設備、書棚の改修を行う
もの。



利用しやすい図書館へ

小学校図書室

空調設備工事
389万円

町内の全小学校の図
書室に空調設備を設置す
るもの。

財政調整基金

積み立て
1億9773万円

佐川中学校建設基金廃
止による財源1億713
5万円と町費2638万
円を積み立てるもの。

黒岩小学校耐震化

大規模改修工事
5126万円

防災対策として、黒岩
小学校の耐震補強と大規
模改修の工事を併せて行
うもの。

意見書

国にもの申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

保育制度改革に 関する意見書

(提出者 中村卓司)

現在、国において検討されている新たな保育制度である「子ども・子育て新システム」は、十分な議論もないまま強引に進めようとしている。国及び国会においては、国と地方自治体の責任のともに保育制度の拡充を図るよう、保育所・幼稚園・学童保育及び子育て

支援関連予算を大幅に増やし、子育てにかかる経済的負担の軽減を図り、児童福祉施設最低基準を引き上げ、抜本的に改善すること。

また、保育に格差が生じる直接契約・直接補助方式は導入せず、幼保一体化については、拙速な結論は避け、慎重に検討することを強く要望する。

(要旨)

(賛成・全員)



元気で、すこやかに

米価大暴落に 歯止めをかける ための意見書

(提出者 中村卓司)

農林水産省は、米戸別所得補償モデルによって、米の需要は均衡し、米価は安定するとしてきたが、相対価格は下落を続け、22年産の9月の相対価格は前年を14%、2000円も下回る事態に至っている。

各地のJAが示した概算金は1万円程度、中には7千円台という驚くべき水準となっている。米の需要を引き締め、価格を安定・回復させるためには、政府が年産にかかわらず、過剰米を40万トン程度、緊急に買い入れることが最も効果的であると考え。米価下落対策として、直ちに40万トン程度の買い入れを行うことを求める。

(要旨)

(賛成・全員)

燃油減免制度の継続を求める意見書

(提出者 氏原義幸)

これまで農漁家の経営に貢献してきた免税軽油制度は、地方税法の改正によって、このままでは平成24年3月末で廃止される状況にあり、現在、政府が昨年、1年間延長したA重油の免税・還付措置(1リットルあたり2円4銭)も廃止される状況にある。

免税軽油とは、道路を走らない機械に使う軽油について軽油取引税(1リットルあたり32円10銭)を免税する制度であり、この減免制度がなくなれば、今でさえ困難な農漁業経営へ影響は避けられない。本県産業の中心である農漁業経営への影響は深刻であり、免税軽油制度の継続とA重油の免税・還付措置の継続を強く求める。

(要旨)

(賛成・全員)



今年もおいしい米づくり、目指して

東京都方式の導入を

町長 手幅にかなうか判断

松浦 隆起 議員



8人が町政を問う

ここが聞きたい

本町が行っている会計方式は、単純にお金の出入りを記録し、現金のやり取りがあつたときに計上する単式簿記・現金主義だ。東京都は、実際の現金のやり取りがなくても取引が発生した時点で会計処理を行う複式簿記・発生主義の方式を取り入れ、隠れ借金を解消し、財源を確保するなど、大きな成果を上げている。本町においても、新公会計制度に向けて、システムも無償貸し出しをしている「東京都方式」の導入を検討すべきだ。

岡林総務課長 東京都方式が進んでいることは再認識した。無償貸し出しについては都に問い合わせるが、新公会計制度の過渡期であるので、ひとまず、総務省の基準モデルの方向で進みたい。

榎並谷町長 ハードルは高いが、提案を受けた以上、資料を取り寄せ、手幅にかなうと判断すれば、取り組んでいきたい。

介護用住宅改修



これで安心、楽になりました

受領委任払い制度の導入を

健康福祉課長 前向きに検討したい

介護保険が適用される住宅改修費、福祉用具の購入費は、9割が保険から支給される。現在、償還払い方式となっており、利用者はいったん、全額立て替えずなくてはならない。利用者の負担軽減のため、自治体が9割分を直接、業者に支払い、利用者は最初から1割の負担で済む、受領委任払い制度を導入すべきだ。

下川健康福祉課長 制度導入には研究が必要だが、被保険者の利益を優先し、適正な保険給付ができるように前向きに検討したい。

被災者支援システム

早期に導入すべきだ

総務課長 検討に入る

兵庫県西宮市が、阪神・淡路大震災を機に、被災後の被災者の支援に向けた「被災者支援システム」を開発した。災害時において情報を掌握し、被災者の支援に生かすためにも不可欠なシステムであり、早急に導入すべきだ。

岡林総務課長 非常に優れたシステムであり、無償で活用できる。災害に見舞われたときに、確かに役立つシステムであり、検討に入らせていただく。



災害ボランティアセンター設置に向けて協議

計画性持つべきだ

町長 事業に唐突感があつた

23年度予算を12月議会で58億円程度と言いつながら、実際には65億8800万円となっている。

財政健全化計画の確実な遂行を表明しているのに増加している。増加した原因は何か。もっと計画性を持つべきだ。

霧生関公園、旧佐中グラウンド整備等をみても計画性がないと言えるのではない。

岡林総務課長 予算増加の主な原因は、霧生関公



森 正彦 議員

園、旧佐中グラウンド整備、市ノ瀬玉割小橋、久万田堰の工事等だ。予算編成方針を立てる段階で、これらを把握できていなかった。榎並谷町長 いくつかの事業において、唐突感があつたことについては私の不徳のいたすところであり、今後気をつけたい。

子育て支援対策

子育ての町宣言せよ

健康福祉課長 少し時間が必要



子育てしやすい町づくりへ

本町の人口減少率が、近隣の町村に比べて低いのは、人口の流入があるからだ。定住人口の増加による経済効果は大きい。子育てを地域全体でサポートすることで定住人口も増えるのではない。本町は子育てをする環境が整っており、子育ての町宣言をしてはどうか。下川健康福祉課長 子育て支援策は、県内の市町村の中で秀でた部分はまだ少ない。若者が定住しやすく、転入増加に向けた魅力ある町としてアピールするにはもう少し時間をとりたい。

農業振興

再生への対策は

産業建設課長 集落営農組織の育成

農業の再生が大きな課題となっている。再生への実施事項の検証と今後の課題、対策は。渡辺産業建設課長 園芸部門ではレンタルハウスの導入、認定農業者の育成確保で一定の成果が上がっている。茶は現在停滞しており、水稻栽培も体質そのものが脆弱になっている。今後は集落営農組織の育成確保、そして法人化へ結びつけたい。



農業再生の切り札、集落営農組織結成



片岡 勝一 議員

平野・大田川沈下橋

今後の具体策は

産業建設課長 補助、交付金事業を調査していく

沈下橋の撤去の件は、平成22年9月定例会で、前向きな答弁があった。しかし、その後進展はなく、大雨、台風時に、柳瀬川が氾濫し、作物が冠水する季節が近づいて



藻くすがかかり堰となる沈下橋

きた。沈下橋の撤去により、排水がよくなり、農作物の被害が軽減される。今後の具体策はどのようなのか。
渡辺産業建設課長 関係者から要望書をいただき、中央西土木事務所越知事務所とも検討している。ただ、町単独予算で賄うことができないために、来年度実施は困難だ。適切な補助事業、交付金事業を調査して導入に努め

柳瀬川改修

県へ働きかけできないか

産業建設課長 要望を繰り返すしかない

柳瀬川庄田橋より下流の未改修部分を何十メートル、何百メートルと工事を少しずつでも継続して行えば、何年か先には、仁淀川との合流点に行き着くはずだ。県への働きかけはできないか。
渡辺産業建設課長 水害対策としては、圃場整備と一体方式、単独方式、仁淀川のショートカット、導水トンネルなどがある。水害対策会議、関係者、地権者の合意を形成しながら、県を通じて、国に要望を繰り返すしかない。

ふるさと納税

本町の状況は

総務課長 合計96万円

ふるさと納税制度は、2008年1月1日以降任意の地方自治体に寄附すると、その居住地で1割を上限に住民税が控除される制度である。本町に受け付けている状況はどのようになっているか。

岡林総務課長 ふるさと納税の状況は、22年度までで、延べ14人、実人数9人、合計金額96万円となっている。
この寄附金の使途希望は、医療・福祉などが4件、上町整備2件、教育・文化・スポーツ振興1件、図書館充実1件、指定なし6件で、有効に活用している。

- 柳瀬川下流の草刈り、その他の質問
- 柳瀬川下流域水害対策の勉強会に地域住民を加えることはできないか。また、仁淀川中流域水害対策住民会議の事務局を役場に置けないか。
- 場所ケ内沖へ側溝と進入路はできないか。
- 高北病院前の町道の改良できないか。
- 町立図書館の駐車場整備は、どうなっているか。
- 名誉町民下八川圭祐氏寄贈のピアノの管理は、できているか。



中村 卓司 議員

黒岩地区の洪水対策について、以前、県において作成されていた河川改修と基盤整備の設計図を復活させ、進めていく基本姿勢を持つべきだ。河川改修だけでなく基盤整備も含めて一緒に実施していくべきだ。

柳瀬川改修

河川改修・基盤整備 併せて実施すべき

町長 水害対策としては早道

榎並谷町長 基盤整備は地元の合意がないと、行政から実施せよとはならない。慎重に扱う必要がある。地元の合意が得られれば、河川改修も含め、水害対策として早道ではないかと考える。



解決策見えないソニア問題

ソニア存続問題

一番いい方向は

町長 現状維持したいが不可能

ソニアは最終的な方向性として、補助金返還の必要のない仁淀川森林組合に引き取ってもらう方法を模索している。5月末には給料支給の限界もくると聞いている。本町として、どういう方向で行くのが一番いいと認識しているか。榎並谷町長 地場産業の振興と雇用問題を含め、現状を維持したいが、現段階では不可能と判断せざるを得ない。選択肢の一つとしては、無償で県森林組合連合会か仁淀川森林組合に譲渡する方法がある。しかし、資産に対して課せられる贈与税が引き受け側にかけられることがネックとなっている。



整備が行われる第2グラウンド

23年度予算

場当たりのではないか

町長 住民要求踏まえ編成

23年度予算案は、大変経済的に厳しい時期にかかわらず、前年を上回っている。霧生関公園や、旧佐中グラウンドの整備に大変大きな金額が計上されている。

23年度予算案は思いつき予算としか思えない。場当たりのになってはいないか。

榎並谷町長 霧生関公園は十数年前からの懸案事項であり、どうしても運動公園として仕上げる必要があった。また、旧佐中グラウンドは社会体育で大人から子どもまで幅広く使ってもらいたい。財政健全化計画を基本に置き、住民の皆さんの要求を踏まえて、予算編成を行った。

その他の質問
○道の駅の今後の取り組みは。
○町行政での適正化計画は。



岡村 統正 議員

霧生関公園

大災害時に 利用できないか

町長 非常時には利用

霧生関公園の建設工事には、約4億円の予算が組まれているが、各工種の単価は適正か。広域大災害に備えることも重要であり、多目的広場として、こういった利用ができるのか。

また、調整池の水を利用して消防団の演習会場としての利用はできないか。

岡林総務課長 工事費は場内整備費で3億8千万円、ヘリポート整備費に316万円、その他を含め4億1千万円になっている。町民の健康増進、救命救急、防災の観点から必要な施設であり、金額は見合ったものとなっている。

榎並谷町長 工事費は地債での事業を選択しており、町の負担は軽くなる。

基本的に運動公園だが非常時は防災資材置き場などの利用も考えている。調整池は洪水対策のためで、常時水を溜めておく施設ではなく、利用するとなれば関係者との調整が必要だ。

防災対策

役場から地続きの 道路、必要

町長 実現は厳しい



災害時に向けて整備が求められている

南海地震が起きた場合、役場前の道路は倒壊家屋等の障害物で通行できないことが予測される。春日踏み切りへ道をつければ、高北病院側への通行が可能になる。災害対策本部機能、初動体制の対応を考慮し、地続きの道路が必要ではないか。

榎並谷町長 避難的な道路の整備は必要と考える。ただ、提案のあったことは検討する必要があると思うが、JRとの協議となり実現は大変厳しいも

中学校校区

外した場合の プラス・マイナス面は

教育長 両面考えられる

校区を外せば、各学校で特色ある学校づくり、個性的な指導方法などに取り組むことができ、その学校を生徒が選択することができ。ただ、校区を外すことは地域住民、関係者の深い理解と協力が不可欠だ。

仮に実施した場合、問題点が出てくることも予測されるが、プラス・マイナス面はどうか。

川井教育長 特色ある学校づくりは当然だ。プラス面は、学校の特色、部活動を基準に自由

に選べる。友人関係で悩みのある生徒の環境を変えることができる。地域により通学距離の短縮ができる。

マイナス面は、多様な部活動の佐中に生徒が偏ることが懸念される。通学距離、交通事故、不審者などにより危険性が増大する。学校と地域のつながりが希薄になる恐れがある。



特色ある学校づくり

小脳血管芽腫

介護認定、なぜされなかった

健康福祉課長 特定疾病に入っていない

私の知人が小脳血管芽腫により、機能障害で右半身麻痺となっている。その上、嚥下障害で1日3回、カテーテルで胃に栄養剤を注入し、リハビリも含め1日4時間以上の看護が行われている。介護認定を申請したが、認定されなかった。なぜか。

下川健康福祉課長 40歳から65歳未満の者は特定疾病に該当しなければ認定されない。小脳血管芽腫は特定疾病に入っておらず認定されなかった。障害者自立支援法での支援に取り組む。

入札制度

改善策は

総務課長 一般競争入札へ移行

落札率が99%と高いものが見受けられる。原因は何か。改善策はあるか。ある入札で談合情報があったと聞くがどう処理したか。

岡林総務課長 高い落札率の原因は、入札の予定価格、最低制限価格の公表が関連しているかもわからない。原則である一般競争入札への移行を町長より指示されている。

談合情報は県の談合情報対応マニュアルに基づき調査した結果、談合はなかった。

榎並谷町長 一般競争入札への移行については、地元の建設業者の保護・育成も大事であり、一定の制限付きの一般競争入札など、町民からみていい方法だという方向に向けて取り組みたい。

水道事業

普及率向上計画あるか

産業建設課長 文書化していない

水道料金の10%の値上げが今議会に提案される。この改定は、水道事業基本計画で検討し水道委員会でも審議して結論を得たものだ。町民サービス向上のため、現在の普及率83%を100%にする計画はあるか。

渡辺産業建設課長 水道事業で供給している上水道、簡易水道と部落で管理している飲料水供給施設を合わせると87%となる。文書化した普及率向上計画はない。

その他の質問
○TPP参加への反対、どう進める。



待望の水道が布設される予定の砂止地区



坂本 貞雄 議員



窓口には多くの相談が寄せられている



今橋 寿子 議員

教育行政

方針・方向性は

教育長 文教の町、実現への人づくり

川井教育長 健康で明るく住みよい文教の町を実現するための人づくりを基本とし、学校教育では、知・徳・体のバランスの取れた心豊かでたくましい子どもの育成を目指したい。生涯教育は主体的に学び、心身ともに健康な人づくりを推進できる環境の充実に努めたい。

本町独自の方向性は、佐川町の歴史や文化に根差したものが独自性と考ええる。

教育の原点は家庭であるとの認識を浸透させていくためPTAの横のつながりを活用して、家庭における基本的生活習慣の確立と家庭学習の定着を図っていく。

教育行政の方針、方向性、具体的な取り組みと、本町独自の教育の方向性、長期・短期的な展望はあるのか。また、保護者会やPTAの組織力を生かした子どもの支援体制をどう作っていくのか。

あったかふれあいセンター

今後の見通しは

健康福祉課長 高知型福祉の拠点に

利用状況は、1日平均9人が3事業所で利用している。

本事業の実施は今年をもって終了となるが、県が進める「日本一の長寿県構想」の中で、高知型福祉の実現の拠点として、あったかふれあいセンターを位置づけており、財政支援が行われることになっている。事業所の意向を尊重しつつ、24年度以降の計画を視野に入れた取り組みを具体的なものまで掘り下げて検討したい。

国の動向が不透明な中、人口減少、高齢化や景気低迷による税収の減少、桜座の基金減少、高北病院の耐震改築の大事業、予期せぬ天災に対する蓄財の必要等が考えられる。財政健全化対応として、次世代への対策は十分なか。

財政運営

次世代への対策、十分か

総務課長

財政健全化に努力

岡林総務課長 基金残高は黄信号ではない。実質公債費比率は、将来段階的に下がっていくと推計している。起債に関しては、交付税算入がされる有利な起債に限定し、財政健全化に努力していく。

その他の質問
○ 通行止めになっっている川ノ内線の現状と復旧の見通しは。



高齢者のいこいの場となっているふれあいセンター



松本 正人 議員

高北病院の看護労働者の実態に触れる機会があった。「引継ぎに3時間かかったが、その分はサ―ビス残業、帰っても食事をする気力もわかない」「夜勤で一度も座ることさえできない」等の訴えを聞いた。

高北病院

看護師確保へ努力必要

病院事務局長 充足に向け、手段講じたい

辞めだがつっている看護師もいると聞いている。このままでは、必要とする最低限の看護師の確保もおぼつかなくなる恐れがある。圧倒的に看護師の数が足りない状況が日本にはあり、国の失政が原因とは思われるが、高北病院独自の努力も必要だ。

笹岡病院事務局長 看護職員には日夜苦勞をかけている。

看護職員の充足に努めているが、思うに任せない状態が続いている。特に、高吾北地域は看護職員の確保が困難な地域となっている。現場の声を反映した体制の充実に向けて、いろいろな手段を講じて取り組んでいきたい

国民健康保険税

引き上げないよう最善尽くせ

町長 現状維持、難しい

国保税は、町民生活に重くのしかかっている。国保経営の健全化を国が責任を持って実行するよう国に強く要望すべきだ。本町においては社会保険として憲法や地方自治法の趣旨において、国保財政の真の健全化、社会福祉の増進のため、全力を尽くすべきだ。国保税はせめてこれ以上引き上げないよう、最善を尽くすべきだ。

榎並谷町長 今の社会情勢の中では、国保税額を維持したとしてもどこかで町民に負担がかかる。現状を維持しながら財政支援をしていくのは考えにくい。



経済活性化が期待される

住宅リフォーム助成事業は、秋田県で先進的に進められており、非常に少ない投資で大きな効果が得られる。本町単独でできないか。これを実施するには約6000万円になり、町単独予算ではできる事業

ではないとのことだが、旧佐中グラウンド整備に2億円を超える単独予算が予定されている。このバランスをどう考えるか。

榎並谷町長 旧佐中グラウンド整備に多額の単独予算をつぎ込むことになっている。比較されると1/3ということになるが、事業の性格が異なる。住宅リフォーム助成については、経済効果などからいって、できることなら検討したいが、国、県レベルでの助成のもとで進めていくべきだ。

住宅リフォーム助成事業

単独でできないか

町長 国、県レベルで進めるべき

委員会レポート

国道494号佐川バイパス整備促進特別委員会

1月25日

整備状況の説明を受ける

委員長 中村 卓司

中央西土木事務所越知事務所、所長他3名の職員から国道494号佐川、吾桑バイパスの整備状況の説明を受けた。現地での調査では、越知事務所が管轄する佐川①工区(川内ヶ谷～岡崎)約1.5kmは22年度末の完成を目指している。供用開始は、平成23年の大型連休前に実施するように日程等の調整をしているとのことだ。

供用開始は

大型連休前



安全対策に、多くの要望を行った

23年度以降は

白石工業付近

まで整備

佐川②工区(斗賀野トンネル～市町境)1.1kmと須崎①工区白石工業付近450mの整備を行うとのことだ。

33号への接続箇所は

信号機などの設置

が遅れる

国道33号川内ヶ谷との接続部の信号機・横断歩道などは6月中ごろの設置となる見込みで、設置されるまでは一時停止の規制となるとのことだ。

安全対策に

意見交わす

意見交換では、各委員から安全対策・安全施設や誘導標識の設置などへの意見が集中し活発な意見交換ができた。

議会広報編集委員会

2月17日～18日

研修会東京会場へ全員参加

議会広報紙のクリニックを受ける

委員長 岡村 統正

講演内容を参考に

第73回町村議会広報研修会が東京で開催され、編集委員5人全員が参加して2日間の研修を受けた。

1日目の研修内容は文章校正力、企画とレイアウト、発信力、撮影と表現方法などで3人の講師から講演を受け、それぞれの講演内容は大変参考になるものであった。

Aクラスにあと一歩

2日目は、3部会に分かれてのクリニックがあり、「さかわ議会だより」44号を講師の深沢徹氏に指導をうけた。総評として、「一般質問、住民登場企画、追跡の企画は充実しているし、文体も統一され、紙面もゆとりがあり読みやすい。Aクラスにはあと一歩だ。表紙の写真は白黒だがシャッターチャンスが素晴らしく風景と構図などその場の情景を感じ取ることができるいい写真である。」

改善箇所は、発行町名の記載、決算の情報がやや不足しており詳しくわかりやすい記述をすること、また、議決結果は賛否数の記載をすること」などだった。

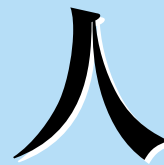
親しみのある紙面に

取り組む

今後、全国でAクラスになるように、研修内容も取り入れ、より一層身近で分かりやすく親しみのある紙面づくりに、編集委員全員で取り組んでいきたい。



全国から256名が参加して行われた研修会



わがまち「人」では、この佐川のまちで元気に活躍されている方にスポットをあて紹介します。今回は、加茂の下川堤防に花を咲かし続けている鈴木茂光さんにお話を伺いました。



鈴木 茂光 さん

地域に笑顔の花咲かせる 「加茂の花咲かじいさん」

— すごい花の数ですが、何種類ぐらいありますか。

冬の一時を除いて、1年中咲いています。数えたことはないですが、桜ひとつ、スイセンひとつでも何種類もありますから。

— いつ頃から始められたんですか。



地域を思う心がきれいな花を咲かせる

平成5年に、20万円出して桜とサザンカの苗を買って植えたのが始まりです。
ハナモモ、ムクゲ、アジサイなども植えま

— ユリの芽も出てきていますね。秋には、コスモスがきれいに咲いていましたね。

ユリもスイセンも増えました。少し前は菜の花

も咲いていました。私が一人でやっていたと、地域の皆さんが手伝い始めてくれました。そのときは、大変にうれしかったですね。それが始まりとなつて、「夢の里づくり隊」という組織ができました。

— 一人の活動から地域に広がった、大変に良いお話ですね。このあすまやも良いですね。

これは、私たちが取り組んでいると、県中央西土木事務所越知事務所が認めてくれています。補助を出してもらい、建てることができました。

花植えや、草抜きなどの作業の後は、ここで、みんなが高知でいうところの「お客」をやっています。

— 本当にきれいですね。でも、これだけきれいにするのは、大変じゃないですか。

1年間に200日以上は、やっていますね。でも、みんなが喜んで散歩してくれると、うれしいですね。始める前は、犬の糞がたくさんありましたけど、今はひとつもありません。

— 最後にこれから抱負をお聞かせ下さい。

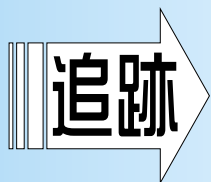
いつまでも「加茂の花咲かじいさん」と言われ



たいですね。もう、本当の「花咲かじいさん」には、なっていますけどね。

— ありがとうございます。ありがとうございました。鈴木さんのような方が、いてくれる地域は、本当に良くなっています。今後も、ますます元気で、地域に笑顔と美しい花を咲かせてください。ご活躍をご期待いたします。

あなたの周りに、人知れず「佐川のまち」の元氣のために活躍されている「人」をぜひ、ご紹介下さい。ご連絡は議会事務局まで。



あれはどうなったが？

あの質問のゆくえ

No.17

校庭の芝生化の取り組みを

校庭の芝生化は教育、環境、地域コミュニティ、防災等、幅広くメリットがある。

鳥取方式は低コストでできる。

まずは一力所からでも取り組むべきだ。

平成22年3月定例会

平成22年12月定例会

(松浦議員)



校庭の一部が芝生化される斗賀野小学校

教 育 長 答 弁

芝生化を試験的に導入

23年度当初予算で、鳥取方式による校庭の芝生化の試験的導入が決定された。

斗賀野小学校校庭の一部の芝生化が予定されている。

どう
なった

条件が整えば検討する

実施している鳥取県に問い合わせ、本県でも取り入れ可能という条件が整えば試験的に一部始めてみるという考えもある。

検討していきたい。

あなたが選んだ議員の
仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は6月7日午前9時開会
予定です。傍聴においでください。

議会広報編集委員会

※わかりやすい紙面にと心がけています。
読後のご感想、ご意見をお寄せください。

委員長	岡村 純正
副委員長	坂本 貞雄
委員	松浦 隆起
委員	片岡 勝一
委員	森 正彦

昨年ベトナムに旅した時、現地のガイドさんからこんなエピソードを聞きました。あなたは何で来たの「ホンダよ」彼女の乗ってきたのはスズキのバイクでした。ベトナムではバイクはすべて「ホンダ」で通っているそうです。

議会だより「さかわ」の発行には毎号5名の編集委員と議会事務局の面々が5回から6回の会合を重ねています。特に今回は先の全国議会広報研修会で得た知識も生かして、侃々諤々。頭もひねりにひねってききました。ベトナムでバイクといえば「ホンダ」で通っているように、佐川町議会といえ、議会だより「さかわ」で通ってもらえるようお願いながら頑張っています。

坂本

編集後記